

進化と継承

福井県議会議員

ささ はら のぶ ゆき

笹原修之 NEWS



県政に届けます

みなさまの声を

日頃より福井県政の発展に向けた県議会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

北陸新幹線の開業効果は非常に大きく、福井県の観光入込客は前年比約2割増となりました。大阪・関西万博も来場客数が1,000万人を超えてきており、海外からの旅行者にも福井県をPRし、誘客を図っておりますが、実は、県全体の宿泊客室数が少なく、大きな大会では、全ての宿泊客を受け入れられていないという課題も見えてきました。

また、本年度は議会選出の監査委員を拝命いたしました。福井県を取り巻く課題を様々な観点で見ていきたいと思っておりますので、引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録 推進議員連盟による視察

全国の温泉観光地がコロナ禍で大打撃を受けたことへの復興対策として、全旅連が中心となって活動しているのが、「温泉文化」のユネスコ登録です。全国知事会も応援する中、全国100万筆の署名活動でユネスコ登録を目指し、温泉文化の活性化に力を入れる!と全旅連の亀岡専務理事より力強いお話を頂きました。

そして、温泉都市計画第一号の地「伊香保温泉」では、渋川伊香保観光協会の関口会長をはじめ、群馬県議、旅館組合、群馬県文化振興課、渋川市観光課など、多くの方と意見交換させて頂きました。伊香保温泉は、廃旅館問題・後継者不足・人手不足など、あわら温泉と共通の課題を抱えており、特に「伊香保温泉には、旅館はあるけど温泉街がなかった」という言葉が心に刺さりました。これはあわら温泉にも言えることで、「歩きたくなる温泉街」について深く考えさせられました。



再生可能エネルギー促進議員連盟による 浮体式洋上風力の視察

福井県あわら市沖の洋上風力は「着床式(海底に柱を立てる方式)」の予定ですが、長崎県五島市沖では「浮体式(海に浮かべる方式)」の実証実験中ということで視察に行きました。五島市沖は2019年に促進区域に指定され、総事業費約300億円、経済波及効果41億円、雇用のべ人数360人を見込んでおり、2026年には9機の風車を運転開始予定です。福江港から10km沖に浮いている「浮体式洋上風車／はえんかぜ」の奥では、次の計画となる8本の浮体式洋上風車が建設中でした。その後、全国90サイト／約540基の風車を管理している保守・修繕の専門会社「イー・ウインド」様や、再エネを活かした電力の地産地消に取り組む「五島市民電力」様にもご講演を頂きました。



1 「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産の登録推進について

Q1

日本のユネスコ無形文化遺産には「和食」・「和紙」・「伝統的酒造り」などが登録されています。「温泉文化」の登録目的は、温泉の文化的価値を正當に評価し、温泉地で働く人々の誇りと希望を高め、日本固有の文化としてブランド化することであり、知事は福井県の「温泉文化」をどのように認識し、発展させようとしているのか、所見を伺います。

Q2

2024年の訪日外国人旅行者数は約3,687万人、旅行消費額は約8.1兆円、旅行単価は約22.7万円となっており、本県におきましても昨年比で観光客入り込み数は17.6%増、観光消費額は23.5%増で、過去最高の入り込み客数や観光消費額を達成することができた新幹線開業効果の検証を踏まえ、今後どのように効果を持続させようと考えているのか、県の所見を伺います。

Q3

群馬県伊香保温泉は、昔から「旅館はあるけど温泉街はない」と揶揄されたそうですが、今では地元の若者が次々と出店し、温泉街中心の石段には多くの観光客が溢れています。あわら温泉でも観光庁の補助金を活用し、温泉街全体の高付加価値化を図りましたが、県は「あわら温泉」に対してどのような観光振興に取り組んでいくのか、所見を伺います。

まとめ

「温泉文化」のユネスコ登録は、官民が一体となって「温泉文化」を発信することで実現されるものと考えます。世界から注目されるような観光施策を期待します！

A 知事

温泉はインバウンドのお客様が日本で体験したい、訪れたい人気のコンテンツです。福井県内には宿泊できる温泉地が37カ所あり、特にあわら温泉では源泉が74本あり、宿ごとに泉質が違うことが非常に魅力的であります。

また、三国温泉や鷹巣温泉を「越前温泉海道」というようなネーミングでブランディングしたり、食や地酒、伝統工芸をまるごとパッケージにしたりして、県内の温泉の魅力発信に力を入れていきたいと考えています。

A 交流文化部長

開業1年目は、観光地の磨き上げや宿泊施設の充実、首都圏等での切れ目ないプロモーションが成果を上げました。開業2年目も、引き続き新幹線沿線地域でのプロモーションや夜間コンテンツの造成などで県内の周遊・宿泊を促進し、「観光投資でさらに稼ぐ観光地域づくり」の実現に向けて、本県にふさわしい上質なホテルの誘致や観光地のスケールアップなど、温泉をはじめ宿泊客を拡大することで、令和11年の観光消費額1700億円の達成を目指します。

A 交流文化部長

県はあわら温泉を重要な観光資源と考えており、これまでも足湯や散策路の整備、客室のリニューアル、温泉満喫チケットの企画販売、ツアー商品の造成、温泉と恐竜博物館を結ぶあわら恐竜号の運行など、宿泊客の拡大や周遊観光の促進に対し、様々な支援を行ってきております。今後も観光客の滞在時間の伸長や観光消費額の増加、民間投資の呼び込みなど、あわら市が行う観光まちづくりについて、関係者とともに検討してまいります。



温泉/ONSEN
シンボルマーク



2 第11回 ワールドマスターズゲームズ関西について

Q1

2027年5月に「第11回ワールドマスターズゲームズ関西」が日本で初めて開催されます。福井県では高浜町でライフセービング競技、あわら市でカーポロ競技が開催されます。大会参加者数は国内外から約50,000人で、大きな経済波及効果が福井県のファン作りが見込まれますが、本県への誘客にどのように取り組んでいくのか、中村副知事の所見を伺います。

Q2

北潟湖では30年以上にわたり国内最大規模のカーポロ大会「あわらカップ」を毎年開催しており、ワールドマスターズゲームズでは10カ国から40チーム・約300人の参加者を狙っています。来年度のプレ大会に向け、快適な競技運営ができるよう競技会場周辺の湖岸整備を行い、将来的にはスポーツツーリズムへと発展してはどうかと考えますが、県の所見を伺います。

A 中村副知事

この大会を契機とした顧客拡大を図るため、県ホームページでの掲載や、会場周辺の観光情報を発信します。そして来年のプレ大会の会場でも観光PRを行い、本県への長期滞在や周遊につなげてまいります。また、大阪・京都事務所を活用し、関西各地で開催されるプレ大会への出向宣伝やイベント出展で、本県の観光情報を発信し、2年後の本大会に向けて地元市町とともに福井ファンづくり、それから再来訪につなげたいと考えています。

A 交流文化部長

県では北陸新幹線開業を契機にスポーツツーリズムを推進し、交流人口の拡大を図っています。こうした中、ワールドマスターズゲームズ関西の本県での開催はツーリズムをさらに進める上で絶好の機会と捉えており、特に豊かな自然環境を生かすことができるスポーツイベントは本県の魅力を大いに発信できるものと考えます。競技会場周辺の湖岸整備については、2027年の大会に向けてあわら市や競技団体と意見交換してまいります。

Q3

カヌーポロ競技は、当初、他県での開催予定でしたが、本年3月に福井県北潟湖での開催が急遽決定しました。大会運営に関して、他競技との間に格差が生じることが無いよう求めますが、県内の機運醸成や全国・世界に向けた開催地の情報発信など、大会組織委員会において適切かつ十分な広報支援および財政支援が行われるのか、県の所見を伺います。

A 交流文化部長

県では先月開催された台湾大会にて本県開催をPRしており、今後も周知を図ってまいります。カヌーポロ競技の開催経費については、大会組織委員会においても交付額を検討中と聞いております。他競技と格差が生じないよう十分な額の交付を委員会に求めてまいります。また、大会成功に向け、あらゆる機会を捉えて機運醸成に努め、カヌーポロ競技といえあわら市と、県内外や海外からも多くの人々が訪れる聖地となるよう、市や競技団体と一丸となって進めてまいります。

まとめ

「ワールドマスターズゲームズ」は、誰でも参加できる世界最大級のスポーツの祭典であり、大きな観光消費額を生む機会でもあります。大阪・関西万博同様、このチャンスを逃さず、あらゆる角度で福井を売り込む施策を期待します！

3 洋上風力発電事業を見据えた産業政策と専門人材の育成について

Q1

生成AIや半導体工場、データセンター立地など国内の電力需要は約20年ぶりに増加の見通しとなり、国産の再生可能エネルギーの普及拡大が求められています。あわら市沖で計画されている洋上風力発電は事業規模も大きく、県内への経済波及効果は1,230億円、雇用創出効果は最大延べ約6,880人と公表されましたが、早い段階からエネルギー政策と産業政策の連携が必要であり、昨年的一般質問でも「炭素繊維技術を応用した部材の開発」や「福井港の港湾計画」など、いろいろ提案させていただきましたが、現時点においてどのような進捗があるのか伺います。

A 産業労働部長

現在、ブレードの県内生産を念頭に、産総研や大手メーカーと意見交換を行っています。「炭素繊維」は「ガラス繊維」よりもたわみにくく、ブレードの大型化に向いている一方で、その導電性から我が国に多い落雷の際に焼損しやすいなどの課題も指摘されています。こうした課題の解決には多額の研究費が見込まれることから、引き続き情報収集を行い、本県の炭素繊維を使った大型ブレードの開発の可能性について検討してまいります。

A 土木部長

福井港の長期構想に相当する「福井港湾振興ビジョン」の改定に向けて、昨年度は勉強会を7回実施しており、洋上風力発電の可能性などにつきましても意見交換を行っています。今年度も引き続き勉強会を重ねていく予定です。尚、洋上風力発電を「福井港港湾計画」に位置づけるには、事業者の利用計画が具体化することから、機会あるごとに事業者には確認しておりますが、現状では具体化に至っていない状況です。

Q2

長崎県五島市の視察で、「専門人材の育成に約3年は必要だ」とご教示いただきました。洋上風力事業では保守業務による雇用効果が大きいとされていますが、県内企業の体制はまだ不十分であり、企業の参入に向けた支援が必要であります。洋上風車に必要な専門人材の育成について、他県の事例も踏まえ、どのように進めていこうと考えているのか、県の所見を伺います。

A エネルギー環境部長

先行している秋田県や北海道では、関連産業の従事者に向けた資格取得費への支援や学生に向けた出前講座の実施など、様々な取組が進められています。

本県においては、まず有望区域の選定に向け、関係者の理解を得ることが重要であると考えておりますが、専門人材の育成につきましても経済波及効果を最大化するといったようなことから、先進事例における取組の研究を進めていきたいと考えております。

Q3

脱炭素社会を実現するためには、教育や啓発活動が重要な役割を果たすと考えます。現在、世界各国がそれぞれの目標に応じて、多様な脱炭素化の取組を進め、新しいビジネスチャンスの創出に向けて動いている中、脱炭素社会の将来を見据え、子ども達への環境教育やグローバル教育についてどのようにお考えか、藤丸教育長の所見を伺います。

A 教育長

環境学習は中学・高校の家庭科で学び、高校の公共・地理総合では、地球規模で起こる環境問題について学びます。また、グローバルな視点による環境教育については、例えば藤島高校ではオンラインでフィリピンの高校生とプラゴミ削減について意見交換を行い、若狭高校では高校生国際化学フォーラムを開催し、台湾やフィリピンの生徒との共同研究に取り組んでいます。今後も脱炭素社会に向けた環境教育について、様々な活動を進めてまいります。

まとめ

洋上風力発電は、福井県としても決して遅れを取ることが無いように、早め早めの計画策定と人材育成で、「あわら市沖洋上風力発電」の一日も早い実現を期待します！

6月2日(月)
滝波宏文参議院議員と共にあわら市内の企業様を訪問しました！
(抜粋)



普段どういう活動をしているの？

笹原修之の活動報告

【2025.4▶6】抜粋

詳細は  Facebook
又は、ホームページを
ご覧ください!!



あわら市スポーツ協会総会



縄文ピアスお披露目会



あわら市老人クラブ連合会定期総会



あわら消防団春季火災防ぎょ訓練



刈安山森林自然公園山開き



芦原温泉春まつり



ふくいやまぎわ天下一街道
推進協議会大阪PRを視察



大阪市立阿倍野防災センターを視察



北陸新幹線の要望活動



北陸新幹線建設促進大会



森林・林業・林産業活性化議員連盟で
意見交換会



大阪・関西万博を視察



京都文化庁を訪問



あわら市日本中国友好協会総会



第45回伊井さつきまつり



福井県北陸新幹線
建設促進同盟会総会



ウナギ資源回復放流支援事業



稻田朋美衆議院議員とあわら
北潟湖畔花菖蒲まつりを訪問



福井県生活衛生同業組合連合会
意見交換会



(公社)三国・芦原・金津青年会議所
創立55周年記念式典

県政についてのご意見・ご要望をお聞かせください!!

明るい未来を目指して。福井 **新**・時代

福井県議会議員 笹原修之

【事務所】〒919-0632 福井県あわら市春宮三丁目19-15 (ハロープリント内)
TEL 0776-73-4513 / FAX 0776-73-1036 E-mail:sasahara@helloprint.co.jp

ホームページは
コチラから!

日々の活動を随時更新中!

笹原修之 検索

